

令和7年度<後期>

学校評価集計表

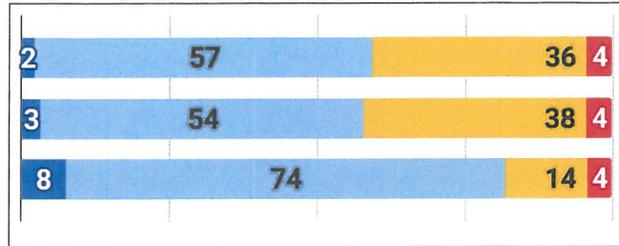
■ 十分達成できている ■ おおむね達成できている ■ どちらかといえば課題がある ■ 課題がある

育てたい子どもの姿

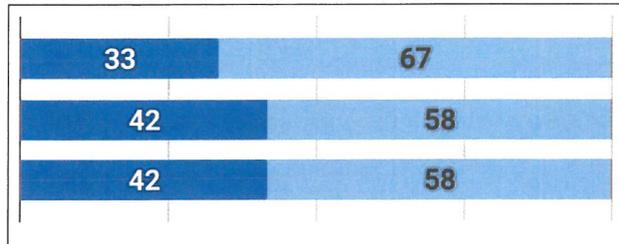
1	児童	明るく元気に笑顔で登校する。	68 25 6 1			
	保護者		26 63 8 3			
	教職員		100			
	地域		100			
2	児童	気持ちのよいあいさつをする。	75 23 1 1			
	保護者		18 52 25 5			
	教職員		8 83 8			
	地域		44 33 11 11			
3	児童	授業中はまじめに集中して学習する。	60 37 1 2			
	保護者		24 52 19 5			
	教職員		8 92			
	地域		100			
4	児童	人の話は「目・耳・心」で静かに聞く。	72 25 2 2			
	保護者		15 61 20 4			
	教職員		8 92			
	地域		33 67			
5	児童	思いやりの気持ちを持つ。	78 19 3 1			
	保護者		27 63 9 1			
	教職員		17 83			
	地域		38 63			
6	児童	正しい言葉づかいをする。	59 31 8 2			
	保護者		10 60 31			
	教職員		8 67 25			
	地域		100			
7	児童	時間を守って生活する。	57 36 4 3			
	保護者		19 46 29 5			
	教職員		92 8			
	地域		50 50			

## 努力事項

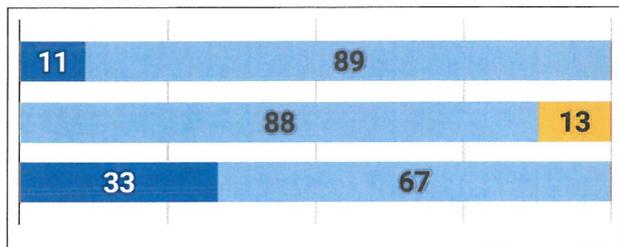
保護者	保護者は、子どもの成長のために、良いモデルを示そうとしている。
	保護者は、子どものしつけのために、上手に叱って上手に褒めようとしている。
	子どものストレスを癒すために、心が安らぐ場を作ろうとしている。



教職員	教職員は、互いに信頼し合い、強い絆で結ばれる学校づくりに努めている。
	教職員は、心身ともに健やかで、感動を味わえる学校づくりに努めている。
	教職員は、確かな学力を身に付け、一人一人が輝く学校づくりに努めている。



地域	地域は、愛着を持たせるために、温かい声掛けをしようとしている。
	地域は、学力の基盤をつくるための取組に進んで関わろうとしている。
	地域は、社会性を育むために愛情を持って寄り添おうとしている。



## 1. 高く評価された項目

### ○ 児童の学校生活への充実感（明るく元気に笑顔で登校する）

- ・ 肯定的評価：児童 93% / 保護者 89% / 教職員 100% / 地域 100%

（いずれも前期から高水準を維持）

肯定的評価の中でも「十分達成」と感じている児童の割合が7割近くまで増加しました。保護者の肯定的評価も約9割と高く、家庭・学校の両面で子どもたちが前向きに登校できている様子がうかがえます。

### ○ 内面の成長と優しさ（思いやりの気持ちを持つ）

- ・ 肯定的評価：児童 97% / 保護者 90% / 教職員 100% / 地域 100%

肯定的評価の中でも「十分達成」と答えた児童が8割に達しており、学校行事や集団生活を通じて、互いを思いやる心が着実に育っています。

## 2. 前期からの変化と成長（児童の意識向上）

### ○ 学習態度の定着（集中して学習する・目、耳、心で聞く）

- ・ 児童の「十分達成」が、「集中して学習」で60%（前期から微減）、「目・耳・心で聞く」で72%（前期から大幅増）となりました。
- ・ 保護者の評価も「聞く姿勢」の肯定的派が前期と同様約8割と安定しており、授業に真剣に臨む姿勢が児童自身の自信につながっています。

### ○ 規則正しい生活（時間を守って生活する）

- ・ 児童の肯定的評価が前期からさらに向上しています。学校生活のリズムが確立され、自律的な行動が増えています。

## 3. 課題として捉えている項目（児童・保護者の認識差）

### ○ 「挨拶」と「言葉づかい」における温度差

- ・ 「気持ちのよい挨拶」：児童の肯定的評価 98%に対し、保護者は 70%。
- ・ 「正しい言葉づかい」：児童の肯定的評価 94%に対し、保護者は 70%。
- ・ 児童は「できている」と感じています。保護者の視点では、家庭や地域での自発的な挨拶や、丁寧な言葉選びにはまだ課題があると感じられています。

### ○ 家庭でのしつけと関わり（保護者評価）

- ・ 保護者の「上手な叱り方・褒め方」への肯定的評価が前期から6割以下に低下しました。子どもの成長に伴う接し方の難しさを感じていることが推測されます。

## 4. 総括

教職員評価では「聞く態度」や「学習集中力」が改善（肯定的評価 100%）しており、学校内での指導は成果を上げてきています。今後は、「学校、家庭、地域、いつでも、どこでも実践する力」の育成に重点を置きます。特に「挨拶」や「言葉づかい」については、児童がいつでもどこでも礼儀正しく振る舞えるよう、学校・家庭・地域の三者で歩調を合わせた声掛けが必要です。また、保護者の子育ての悩みを共有できる場づくりにも努めてまいります。